

# 横浜の

# 2007年問題

横浜市都市経営局政策課

vol.160

調査報  
調季

2007年問題は、団塊の世代の大量退職、人口減少社会との関係、高齢者・介護・年金、技術の伝承など多方面から論じられている。団塊の世代の大量退職と人口減少社会への移行が、ほぼ時を同じくして起こったことが、象徴的である。

人口減少は、今回が初めてではなく、新しい文明システムが普及し尽くして発展の余地がなくなると、人口増加はとまってしまふことを歴史は教えてくれる。私たちは、歴史の大きな曲がり角に生きているのは間違いない。

こうした歴史の真つ只中で、団塊の世代は、サラリーマンは定年退職を迎える。60歳を迎えた人たちは、高齢期に向かつて静かに歩み始めたことを深く噛み締めた。

今回は、特集1を「横浜の2007年問題」とした。横浜では2007年問題が、どんな形で表れるのか。旭区を中心に市民の生の姿を追うとともに、団塊の世代を待ち受ける退職後の姿を、50人インタビューから贈る言葉として届けた。また統計からみた横浜の2007年問題も含めて、市民の姿を確かめるとともに、横浜市の局区の取組も紹介した。

また首都圏レベルからも考察した。基本統計と事実から把握することの重要さは、肝に銘じたい。横浜の現状を踏まえながら、歴史人口学の立場から人口減少社会における団塊世代の問題も考察した。

特集2では、横浜市基本構想(長期ビジョン)策定と中期計画について、ねらいや背景、取組経緯などを、これからの考え方も含めてとりあげた。